

町医者だより

平成27年07月08日合併号

海外でタバコを吸うことの意味

海外、特に米国では喫煙者に対して厳しい印象がある方も多いと思います。今から30年くらい前、学会ではじめて米国に行ったとき、私は既にタバコをやめていたのですが同僚が喫煙者でレストランに入って喫煙席に座っていると、白人のおばちゃん2人が横のテーブルに腰掛けました。少したって同僚がタバコを吸い始めると、2人のおばちゃんが犯罪者を見るような目で我々二人を見て、ごめんなさい、ごめんなさい、ここが喫煙席とは知らずに、といった感じの事を言いながら早々に禁煙席の方に立ち去りました。2014年のJT(日本たばこ産業株式会社)の発表では、わが国の成人の喫煙率は19.7%で、厚生労働省が発表した2012年の成人喫煙率は20.7%です。今や成人でタバコをすっている方は5人に1人です。これは、タバコを吸う人がいないのではないかと勝手に想像してしまう米国の成人喫煙率17.8%(2013年)と比べても遜色ない少なさです。今回は海外でタバコを吸っている人たちがどう思われているか明らかにしていきたいです。

米国アメリカ疾病管理予防センター(CDC)の喫煙者報告書を見ると……

CDCが発表している喫煙者動向の報告書(2013年版)を見ると、日本の統計では絶対出てこないであろう統計が出てきます。第1は人種・民族による喫煙率です。ネイティブアメリカやアジア系、ヒスパニックなど。この中で喫煙率が高いのが多民族非ヒスパニック系とネイティブアメリカンです。一番喫煙率が低いのは9.6%のアジア系で、ヒスパニックも12.1%です。非ヒスパニックの白人が19.4%で、黒人で18.3%で実は白人のほうが喫煙率が高いことになります。第二はどのような教育を受けているかです。GEDという高校卒業認定試験に合格した者の喫煙率が一番高く、実に41.4%です。これは何らかの理由で高校を通常の課程で卒業できなかった人たちが後から取る資格で、通常課程で高校を卒業した人たちの喫煙率(22%)の約2倍です。一番喫煙率が低いのは大学院卒の5.6%です。第3は貧困との関連で貧困層により喫煙者が多いとしています。第4は同性愛者かどうかで、同性愛者で喫煙率が高いです。これらを見るとこの統計を取っている人たちの未必の故意ともいえる結論が引き出されます。要するに差別受けやすい人たちがタバコを吸っているという印象です。

喫煙者はIQが低い

2010年のAddictionという雑誌に論文が掲載されています。イスラエルのテルアビブ大学から報告されているのですが、18歳から21歳までにタバコを吸い始めた喫煙者と非喫煙者でのIQを比較しています。タバコ吸うとバカになるのかあるいはバカがタバコを吸うという事を言いたいようです。

イエール大学からの報告

何が喫煙に人々を向かわせるのか、民族の違いなのか、貧困だからでしょうか？イエール大学の社会学者のVida Maralaniの研究からは教育が関係していると考えられます。つまり、勉強への意欲や達成感があれば、最初からタバコに手を出さず喫煙習慣の獲得につながらないと考えられます。それは自分の周りの環境(家族だったり、友人だったり)に影響されます。日本では健康面で禁煙の必要性が強調されています。もちろん、米国でも同様ですが、海外でタバコをスパスパ吸っていれば、今も変わらず「私は馬鹿です」と宣言していると思なされる可能性が高いです(グーグルで調べるとThe Australianという雑誌にSmoking has become a public declaration of stupidityというタイトルのコラムが掲載されています)。

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

ヤブ 本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポー改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科